函館のまちづくりを考える
はこまち通信
2009
第10号
発行 ： 函館市地域交流まちづくりセンター
http://www.hakomachi.com/

TAKE FREE
ご自由にお持ちください！

もくじ

・特集 はこまち対談 「映画とまちづくり」
・シーニックバイウェイ北海道
・あなたの老後を自分で守れますか（その 2）
・はこだてのＮＰＯ
・「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス
　～助成金を申請する時のコツ～
・はこだて「まちのチカラ」サポート
　～函館移住アドバイザーに参加～
・センター長のつぶやき

第5回 NPOまつり

平成21年8月30日開催

市民活動団体 61 団体が参加して、第 5 回ＮＰＯまつりをまちづくりセンターで行いました。日頃の活動をＰＲしようと市民活動団体がチラシを配ったり、マイクに向かって来場者に説明するなど様々に行われ、大勢の来場者がＮＰＯについて理解を深めました。終始、アットホームな感じのお祭りとなった今年のＮＰＯまつりの様子は、下記のＨＰ上でご紹介しています。

http://www.hakomachi.net/npo_fes/index.html

特集 はこまち対談

Part 9

映画とまちづくり

西堀　滋樹（にしぼり　しげき）氏

〈PROFILE〉

1949年　函館市末広町生まれ。明治大学政経学部卒業。東京時代、函館西高同期の佐藤泰志らと同人誌『黙示』を発行。現在は函館市立弥生小学校で事務職員として勤務するかたわら、『佐藤泰志追想集』・同人誌『路上』（現在１１号まで発行）・はこだてルネサンスの会発行の『函館文学散歩』などの編集に携わる。また、これまで北海道新聞「みなみ風」のコラム欄『立待岬』に過去１０年執筆したものをまとめたエッセイ集『わが世代』『路上にて』を発行している。現在は映画『海炭市叙景』製作実行委員会事務局長としてその活動に追われている。

函館出身の作家、佐藤泰志の作品『海炭市叙景』の映画化が、市民の力により進んでいます。今回は、その活動や作品に対する思いなどを、映画『海炭市叙景』製作実行委員会の西堀滋樹さんにお聞きしました。

丸藤：まず、小説「海炭市叙景」について教えてください。

西堀：佐藤泰志は４１歳で自ら命を絶ってしまうのですが、８１年（３２歳）の一年間は、函館に戻っていました。街がテーマの作品を残したかった彼は、函館の街をかなり詳細に観察します。街の名前こそ違いますが、当時の函館の様子や人々の姿がかなり色濃く描かれている１８編の小さな章が集まっての作品となっています。

丸藤：西高で同期だったと聞きました。

西堀：一時期、一緒に同人誌を出していたこともありました。ケンカ別れみたいになったのですが、亡くなったことを新聞で知った時は凄いショックでした。彼の思いというのを別な形であれ表現しなければならない、消してしまってはいけないという強い危機感が湧き上がりました。そこで大きく二つのことをしました。
ひとつは、その頃できた函館市文学館内に佐藤泰志のコーナーをつくること。ふたつめは、年譜や目録も載せた追悼集を出版することです。

丸藤：どちらも成果がありましたね。

西堀：芥川賞に５回もノミネートされていることもあり、文学館さんも好意的に取り上げてくれました。高専寺赫が描いた初版本の表紙の絵も掛けられています。追想集はとても話題になり、色々な層の人から欲しいと希望がありました。

丸藤：作品自体の評価も高くなってきました。

西堀：評論家の川本三郎さんやフリーライターの岡崎武志さんをはじめ、多くのかたが彼の作品を高く評価しています。若い人からは、希望もあるけど社会への不安や憤りが表現されていて今に通じるという話も聞きましたし、街やそこに生きる人の視点から

も見ることができるとか、心のどこかにひっかかる、という言葉もいただきました。噂が噂を呼んで、古本市場では「佐藤泰志とは何者だ」となり、高値にもなったんですよ。

丸藤：２００７年には、素晴らしい作品集が出版されましたね。

西堀：クレインという出版社の文弘樹さんが立派な本にしてくれました。出版１周年記念に行ったシンポジウムには、いつもの文学の集まりでは見かけないような若い人が多く来てくれました。

丸藤：映画化に向けての動きは、どのように始まったのですか？

西堀：そのシンポジウムの席にシネマアイリスの菅原和博さんが来ていて、映画にしたいという相談を受けました。

丸藤：それを聞いてどう思いましたか？

西堀：本と違って映画はお金の単位が全然違うので、すぐに「はい」とは言えませんでした。１１月に相談を受けて、年明けまでけっこう悩みましたね。でも、やらなきゃ何も生まれないなと。リスクもあるけど踏み出さなきゃ動かないということで、今年が退職の年だということも忘れてしまい（笑）始めました。

丸藤：実行委員会には、いろんな方が集まりましたね。

西堀：小説が好きで入った人の他、映画作りに関わりたいという人も多いです。義務的なものでやっているのではなく楽しみながら一緒に創っていて、まさに“チーム海炭市叙景”です。

丸藤：すでに先行ロケが済んでいるゴライアスクレーンのシーンは、今年でなくては撮影できませんでした。

西堀：タイミングですよね。色んな課題はあったのですが、今が時だという時があるんですね。映画って一年以上の長いスパンが必要で、皆さんの目に見えるのは時々でも実行委員はその間にかけずり回っているんですよ（笑）

丸藤：監督は、今とても活躍している熊切和嘉さんです。

西堀：熊切監督も単なる観光映画にしたくないと言いきってくれています。生活する場から街を見るということが色濃く出るかもしれません。地元の人間としては、期待感とちょっとした怖さもあってワクワクしています。それと、今というのは今しかありません。本当は残しておきたいものを、せめて映像の中で残しておきたいと思っています。

丸藤：募金も集めていますね。

西堀：映画制作協力金（１口１万円）やサポーター募金（１口３千円）などがあり、金額に応じて映画のチケットやエキストラの参加、エンドロールへの名前記載など特典もあります。お陰様で、全国から多くのリアクションをいただいています。お金をいただくわけですから期待に応えられるよう頑張っています。

丸藤：来年の２月には、いよいよ本格的な撮影が始まります。

西堀：撮影が来年の２月で、公開は秋頃になる予定です。映画創りにはまだまだひと山もふた山もあると思いますが、色んな形で参加しているという喜びを共有しながら、たどり着いていきたいと思います。みんなが参加するということを大切にしたいので、ぜひとも、自分も映画のサポーターということを感じてもらいたいですね。エンドロールが流れ自分の名前を見つけて、「ああ！」と喜びたいという思いでいっぱいです。（笑）

丸藤：市民映画、ですね。

西堀：はい。それと、映画とともに佐藤泰志のことも知ってもらいたし、本も読んでもらいたいです。思い当たる人や景色というのが、きっとありますから。

＜聞き手＞
函館市地域交流まちづくりセンター
センター長
丸藤　競

シーニックバイウェイ北海道
函館・大沼・噴火湾ルート

平成21年度の函館・大沼・噴火湾ルート連携活動の一つとして承認された「シーニックの森づくり事業」について、活動報告と今後のスケジュールをお知らせ致します。

○活動報告

シーニックの森づくり事業は、人為的な開発以前の潜在的な植生を基本に自生種を活用することとしているため、将来林相（きじひき森林公園はチシマザサーブナ群集）を考慮した苗木を植樹エリア付近の森から山取し、その苗木を植樹することとしています。

9月16日（水）には、植樹に必要な苗木約50本に相当する約100本分の苗木の選木作業を、北斗市のきじひき森林公園で実施しました。選木作業は、シーニックの森づくり事業を主体的に推進している函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議の2名を中心に、北海道立林業試験場、渡島東部森づくりセンター、北斗市役所らの専門的知識を有する方々のご協力を得ながら行いました。選木作業風景は下記写真となっています。

植樹予定地

選木作業①

選木作業②

選木作業③

なお、選木した樹種は以下の通りです。

No	選木樹種	選木本数	No	選木樹種	選木本数
1	センノキ	10本	9	イチイ	1本
2	ハウチウカエデ	10本	10	アズキナシ	1本
3	ヤマモミジ	10本	11	アオダモ	1本
4	ツリバナ	5本	12	コマユミ	1本
5	イタヤ	10本	13	オオカメノキ	1本
6	クワ	1本	14	ダケカンバ	1本
7	ガマズミ	5本	15	ブナ	100本
8	モミジ	5本			

○今後のスケジュール

今後は、選木した苗木の山取、仮植場所及び植樹場所における整地等の作業を行った後、11月7日（土）11時から1時間程度植樹を行います。

あなたの老後を自分で守れますか（その2）

中尾 仁彦　西堀病院理事顧問、箱館歴史散歩の会主宰
第１回 函館検定 上級試験合格

超高齢化時代を迎えた日本。誰もが避けて通れない老後の問題点を２回に分けて掲載します。１回目は、施設介護から在宅介護へと大きく移行している現状。2回目は、いまや社会問題化している「老老介護」「認知症」と今一度生きることとはが問われる「尊厳死」についてです。

困難が伴う在宅介護、最大の悩みは認知症

函館の65歳以上の高齢者7万5千人の内、一人暮らしは1万5千人もおります。一人暮らしの不安は、「病気介護」「頼れる人がいない」が大半です。

誰しもが願うのは誰にも迷惑を掛けないPPK（ぴんぴんころり）ですが、現実はオムツに始まりオムツで終わるNNK（ねんねんころり）も覚悟しなければなりません。それでも国が困難を伴う在宅療養・介護を強く推し進めるその先には、自宅での「看取り」を現在の10％から40％へと見込んでいるからです。その結果介護殺人や自殺などの悲惨な事件が増加しなければと強く願っております。

さらに深刻なのは「認知症」です。発症率は70歳代で5％、80歳代で20％以上です。しかも自分自身や家族が発症する身近な病気で、長生きの次に認知症が待ち受けています。認知症を在宅介護するには大変な困難が伴い、虐待されている高齢者の約80％近くは認知症で、加害者は息子37％、配偶者25％の悲しい実態なのです。特に徘徊者の介護は悲惨で、家庭の秩序は大きく乱れ、しかも重度の徘徊はどこの施設も人手がかかるため入所を敬遠しがちです。

避けたい孤立死

日本人の平均寿命は、男子79歳（健康寿命71歳）、女子86歳（同75歳）と世界一です。70歳の高齢者を対象に、幾つまで生きたいかの調査によれば、90歳迄が20％、驚くことに15％が100歳を目指しております。しかし昨今の家庭・地域の環境変化は、市民の暮らしに孤立化を生み出し、東京都営住宅では、誰にも看取られず死後平均５日後に発見される悲しい結果です。PPKを願望する高齢者が増加する反面、誰にも看取られずに亡くなる孤立死の増加が懸念され、人生最期の迎え方が「孤立死」ではあまりにも寂しすぎます。

尊厳死をどう考えますか

日本尊厳死協会は、①末期での無意味な延命措置を拒否、②生命の短縮を伴っても緩和医療を望む、③植物状態時には、生命維持装置の撤去を希望の普及活動をしております。賛同するリビングウイル（生前意思）所持者たちは、増加しております。法的効力はありませんが、80％以上の医師はそれを提示された時は尊重する立場だそうです。

一方、命ある限り精一杯生き抜くことが人間の本質であると尊厳死に反対の意見もあります。医師が人工呼吸器を外し殺人容疑で書類送検されましたが、現在も医療現場と法律解釈のずれは解決されておりません。高齢化社会の現状を踏まえて、みなさんは「死」をどう捉えられますか。

まとめ

人生80年代、もはや「余生」は死後です。心身の機能が低下した時、終の棲家はどうしますか？自宅、それとも施設。また誰に頼って、何に頼って生きますか。高齢化は誰しもが避けて通ることはできないばかりか、いつか必ず通る道なのです。外国の言葉にない「寝たきり」にならないよう、自分のことは自分でできる「健康寿命」を一歳でも多く延ばしましょう。そのためには「健康は自分で作るもの」と自覚し、毎日を悔いなく暮らすことこそが老後の大切なことです。

参考文献：石見太市の豊寿語録

はこだてのＮＰＯ

函館には現在約400以上の市民活動団体があり、実にさまざまな活動が行われています。その中からピックアップして毎号ご紹介しています。

01 ＮＰＯ法人 シンクタンクグループ 函館スローマリン

代 表 者 ： 理事長　時兼 正富
事 務 局 ： 事務局長　川崎耀二　（Mobile:　090-3391-0172）
函館市昭和２丁目11番12号
連 絡 先 ： TEL/FAX 0138-41-4433　E-mail： youji-kk@ms1.ncv.ne.jp

当法人は、函館圏の豊かな資源の活用と保全を基に技術・資格・免許を持った会員が自然・海洋・歴史・観光のまちづくりを提言し､次の事業の活動を行います。

①地域活性まちづくり事業
歴史的建造物を活用し、観光資源の情報あるいは新たな資源活用の発信や特産ブランド研究開発などに関連機関と協力してまちづくりの活動を行います。

②自然のふれあい事業
海・森の保全や海辺の再生保護活動などを基に自然との共生を学び、自然環境や景観保全の活動を提案します。

③社会体験教育事業
身近な自然・歴史・文化にふれアウトドアスポーツを通した体験学習や人材育成のための社会的ルールを学ぶ体験教育活動を行います。

02 ＮＰＯ法人 ナルク函館・はまなす

代 表 者 ： 飛山　慶蔵
連 絡 先 ： 函館市時任町12-23
TEL/FAX 0138-31- 2048
E-mail： nalchakodate@mx31.tiki.ne.jp

会員同士の助け合い活動を展開している全国ネット（会員25,000人）のＮＰＯ法人です。ボランティア活動をした時間を「1時間＝1点」として貯金しておき、将来ボランティアを必要とするとき、貯金しておいた点数を引き出し、ボランティア提供を受けられる制度です。農園で園児に「種蒔き・観察・収穫」等の子育て支援・介護施設・病院・公園等でのボランティアを行っています。

人生80年の時代・・・あなたも一緒にナルクで活動しませんか。

03 道南ジェンダー研究ネットワーク

代表者： 竹花 郁子
連絡先： TEL/FAX 0138-23-2504

性別によってあたりまえになっている習慣や制度、いわゆる女らしさや男らしさ（ジェンダー）によって、生きづらいな～と感じることはありませんか？近年、深刻な社会的問題となっているＤＶ、虐待、自殺、セクハラ、性暴力事件などの要因の根底にあるのがジェンダー（社会的・文化的性差構造）です。女性も男性も自分らしく生きられる男女共同参画社会をめざして、1997年からジェンダーについての学習会や講演会の開催、意識調査の実施、講演会、国際会議への参加、高校への出前講座（暴力によらないコミュニケーション）などゆるやかに活動しています。

ハワイ在住の国際的版画家、小田まゆみさん講演会「いのちの大地」

04 ＮＰＯ法人 North Ranch

代表者：水野 正樹
連絡先：北斗市追分82-13
TEL 0138-85-8300
E-mail：npo_northranch@yahoo.co.jp

豊かな自然に恵まれた北海道。想像もつかない年月を重ね育まれてきた自然がここ数十年の間にどれだけ失われてきたことでしょう。私達は失われた自然を少しでも取り戻し後世に引き継いで行きたいと思っています。そこで、自然と触れ合うきっかけになればと思い昆虫の中でも人気のあるカブトムシを、卵～幼虫～さなぎ～成虫へと姿を変える様子を、自らの手で土に触れ飼育・観察することで「生命の誕生」「自然の偉大さ」を感じて、「自然環境保全」「命の大切さ」に関心を持って貰える様活動しています。

幼虫探しの様子

05 大沼ふるさとの森 自然学校

代 表 者 ： ＮＰＯ法人ねおす　高木晴光
現地スタッフ：加藤京子　高橋諭子
連 絡 先 ： 北海道亀田郡七飯町東大沼 294-1　TEL/FAX 0138-67-3777
E-mail：nagareyama@neos.gr.jp
URL：www.neos.gr.jp/oonuma_ns/

今年６月に開校しました。大沼の流山温泉周辺の約 170ha の「ふるさとの森」で、乳幼児からお年寄りまで様々な世代が森と親しめるプログラムを少しずつ実施しています。これまでに始まった事業は、乳幼児とママ向けの「森の子育てサロン」、小学生向けの週末キャンプ「イエティ大沼校」や「大沼ジュニアレンジャー」「子ども長期体験村」。大人向けでは「森林（もり）づくり塾」です。森や子どもが好きなボランティアスタッフを募集しています。

間伐材を切り出してカヌーを作ったよ！

06 グリーンパンダ

代 表 者 ：　木村亜由子・鬼原路子
E-mail：　pandagreen@mail.goo.ne.jp

グリーンパンダでは、オーガニックのお茶を楽しみながら、ママ達の悩みなどを話す場を提供し、自由なムードで楽しく情報交換しています♪
ママのための手芸教室をしたり、子供たちの工作体験をしたりなど、サークルメンバーが特技をいかしてイベントを行っています。
アレルギー相談や子育ての悩み相談も個性あるいろいろな意見を聞くことができ気持ちが少しでも和らいで楽しく子育てできるといいなぁと思っています。

「NPO」ワンポイント・アドバイス

～助成金を申請する時のコツ～

市民活動やまちづくり活動をしている団体にとって、助成金や補助金は活動資金を得るための大きな存在です。しかし、「申請書類を作成するのが難しい」という話もよく聞きます。そこで今回は、申請書を作成する時のコツをご紹介いたします。

❶ 募集要項を読む時のコツ

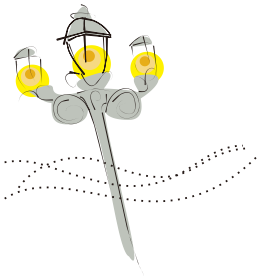
① 資金提供者の価値観や判断基準、お金を提供する「ねらい」を正確に読み取りましょう。
② 特に重要な項目を確認し、記述すべき要点を鉛筆で箇条書きしておくと書きやすいです。
③ 「何を応えるために問われているのか？」を考えながら、設問を読みましょう。

❷ 記述する時のコツ

① 「自分たちが言いたいこと」ではなく、「相手が知りたいこと」を、誠実に、正確に、簡潔に書きましょう。
② 「何をどのようにするか」だけでなく、「それがどのような効果を生むのか」を書いて下さい。
③ 気持や意欲を伝えるのではなく、事実やデータに基づいた成果を書くと説得力が出ます。
④ 予算は“ドンブリ勘定”の数字ではなく、厳密に出した数字で提出してください。

❸ その他のコツ

① 親しいけれど自分たちの活動に関わっていない人に申請書を読んでもらい、内容が伝わるか？　お金を出したいと思うか？　を聞いてみるのも効果的。
② プレゼンテーションや質疑応答が必要な場合も多いです。あらかじめ担当者を決めて、練習をしておくと慌てません。
③ お金をもらって終わりではありません。事業が終わった後の報告書の方が大切です。活動の記録や会計帳簿はしっかりつけておきましょう。



以上の点を参考にして、伝わる申請書作りにチャレンジしましょう！

相談希望の方は、まちセンへ

申請書は、ちょっとした表現の違いで相手への伝わりかたが大きく変わります。
まちづくりセンターでは、もっと具体的な申請書の書き方の相談も受け付けています。
なので、その時のコツもお知らせします。

① 締切間際ではなく、時間に余裕をもってお越し下さい。
② 関係する応募書類や資料を全て揃えて持って来てください。
③ 団体に関係する資料（特に、これまでの活動内容が分かるもの）も、持って来て下さい。

参考資料：［ＩＩＨＯＥ］人と組織と地球のための国際研究所発行　『ＮＰＯマネジメント』

まちのチカラになりたい、
まちのチカラを求めたい、
まちのチカラを応援したい

はこだて「まちのチカラ」サポートデスク

アクティブシニアの活躍も応援！

「函館移住アドバイザーに参加」

梶井 不二夫 さん（59 才）
函館移住アドバイザー

●移住のお手伝い

今年で還暦を迎えるにあたり、今までに経験した事のないことにチャレンジしたいと思っていたところ、参加している友人から函館移住アドバイザーの活動があることを知らされ、早速、参加することにしました。

現在、函館市に移住登録している方だけで約 125 名いらっしゃることを知り、移住者の集まりに参加している人たちの多さにちょっと驚きました。確かに、函館は、季節感もあり、食べ物も美味しく、特に夏は最高の所です。

しかし、見知らぬ土地での生活は、たくさんの不安や不便な事柄が多いと思います。それでも函館に住みたいと来られた皆様に、やっぱり移住して良かったと感じていただきたく、少しでもそのお手伝いが出来ればと思いました。

●私の人生観

私も、今までの人生の中で、何人の人たちと関わりをもってきたのか思い起こすと、以外に少なく、行動範囲も限られていました。そこで、移住者アドバイザーのお手伝いをする事で、函館にいながらいろんな地域の文化や風景、今まで経験されたことなどを移住者の方々から伝えていただければ、また人生観も変わるのではないでしょうか。

どうしてもこの年になると、今までの経験からの固定観念で、物事を判断してしま

いがちですが、必ずしもそれが正しい事とは限らないと思います。年とともに体や頭の中はかたくなってきますが、頭の方は物の見方や考え方を少し変えるだけで、また違った世界が待っているような気がします。肉体の衰えは否めませんが、気持ちだけはいつまでも若者でいたいものです。

●まちに興味津々

函館移住アドバイザーは、函館市地域交流まちづくりセンターでの活動の一つで、センターには、イベントの案内やいろいろな情報が掲示されており、また、観光客や地元の人たちとのふれ合いもあり、私自身このような場所である事を知りませんでした。まだまだ函館には、私の知らない情報が沢山あるのではないかと思い、今ではいろいろな施設を巡っています。

これからは、たくさんの人々とめぐり合うことで、自分が少しでも成長できればと思っています。まさに、これからの人生が楽しみです。

http://www.hakomachi.net

まちセン３階にて「はこだて『まちのチカラ』サポートデスク」を開設しています。
窓口は、年中無休　9：00～17：00　地域のチカラを求めています。

cafe オタジィラ　染木 加奈子

着物のちから

例えば、渋い赤とグレーの矢がすりにかわいらしい大きなお花文様、現在 80 歳であるお客様が女学校に入学するときに仕立ててもらったというお着物を着た日はいつもより「素敵ですね」と声をかけられることが多く、とてもうれしく胸を張ってしまいます。また、20 歳ちょっとのスタッフたちが別のお客様にお着物を直していただいたりかわいがられている姿も、とてもうれしく眺めています。cafe オタジィラのスタッフが毎日着ている着物は全てお客様方からいただいたもの。褒められる着物、見て喜ばれるたくさんのお客様、生まれる関係…くださる際に皆さまが口を揃える「だって着物が喜ぶから」という言葉に、ありがたくうなずく日々です。

カフェOPEN ：10：30－18：00　定休日：水曜日
ブログ ：URL：http://hakomachi.com/info07

ota(g)ira

センター長のつぶやき

丸藤　競

”まちセン“のモットーの一つに、「自分の部屋の次に居心地の良い場所」と言われたい、というのがあります。公共施設は、会議等の用事がないと利用しにくい印象がありますが、そうではなく、何もすることが無い時こそ行きたくなるような場所にしたいと考えているからです。

居心地が良いと様々な立場の人が自然に集まり、いつも人の声がする場所になります。人の声ほど、まちづくりに欠かせないものはありません。人の声は、新しいつながりを生み、元気を創り出します。居心地の良い場所は、まちづくりの栄養源と言えます。

では、私にとって居心地の良い場所とは・・・。

晴れた日曜の午後の陽だまりみたいに優しい場所。のんびりできて、でも、新しい何かを創りたいという思いが芽生える場所。想いをカタチにできる場所。

実は昨年の秋、そういう場所が函館市内に創られました。小さいけれど、夢や想いにあふれている場所です。「むげん空間小春日和」といいます。

”まちセン“のように大きな施設が果たす”かなめ“としての役割は重要です。まちに無くてはならない存在になりたいと、日々頑張っています。でも、それと同じように、小さいけれど居心地の良い場所の存在も、まちには必要です。そして、お互いに連携・協力していきながら、皆さんの宝探しのお手伝いをしていければ、まちはもっと良くなっていくと考えます。

”まちセン“をさらに居心地良くしていくのと一緒に、小さな居心地の良い場所づくりの応援もしていきたいなと思っています。

※「むげん空間　小春日和」（八幡町18-18 教育大桐花寮向い）店内には素敵なカフェもありますよ

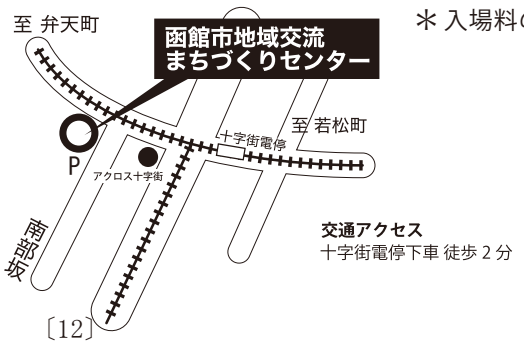
函館市地域交流まちづくりセンターは、
ＮＰＯやボランティアなどの活動の場、
市民交流の場、
地域情報の発信の場
としてさまざま活動にご利用いただけます。

市民活動やＮＰＯについて相談したい方
市民活動やＮＰＯの情報が欲しい方
市民活動やＮＰＯの会報やチラシを作りたい方
打ち合わせ場所がほしい方
研修会や展示会場を探している方
観光情報や地域情報が欲しい方
ご利用をおまちしております。

開館時間：　午前９時～午後９時
休館日：　年末年始（12/31 ～ 1/3）＊器材点検のため月１回程度臨時休館する場合があります。

フロア	区分	ご利用料金		備考
		単位	金額	
市民交流フロア／2F	研修室（A，B）	１室１時間までごとに	500 円	24 人利用可
	フリースペース	１日につき	10,000 円　＊	約 272 ㎡
市民活動支援フロア／3F	会議室（A，B）	１室１時間までごとに	300 円	24 人利用可
	ロッカー（大）	１個１ヶ月につき	400 円	
	ロッカー（小）	１個１ヶ月につき	200 円	
駐車場		２時間無料、超過 30 分までごとに 100 円 駐車場は、当センター裏側、入り口が南部坂沿いにあります。		

＊入場料のあるもの、物品販売などは別の利用料金となります。おたずねください。



函館市地域交流まちづくりセンター
〒040-0053　函館市末広町４番19号
TEL 0138-22-9700
FAX 0138-22-9800
E-mail toiawase@hakomachi.com
URL　http://hakomachi.com/